

受益者の皆様へ

平成 29 年 3 月  
野村アセットマネジメント株式会社

## 「第 1 回～第 12 回 公社債投資信託」の運用状況について

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社運用の投資信託「第 1 回～第 12 回 公社債投資信託」(以下、「公社債投資信託」)につきましては、今後も日本銀行によるマイナス金利政策が継続した場合、基準価額の下落傾向が続くことが想定されますので、改めて運用状況および今後の運用についてご案内申し上げます。

### ■「公社債投資信託」の運用状況について

「公社債投資信託」は安定した収益の確保を目指し安定運用を行なうことを方針としており、このもとで残存期間1年以下の円建て公社債を中心にポートフォリオを構築し、運用しております。

2016 年 1 月に日本銀行がマイナス金利政策の導入を決定して以降、1 年国債金利は急速に低下しマイナス金利の幅を深めました。また、「公社債投資信託」の主要な投資対象となる公社債の利回りもマイナス圏へ低下するとともに、余資(キャッシュ)運用の際のコールローンの金利もマイナスとなりました。

「公社債投資信託」は、保有する債券が満期を迎える毎にその償還資金を再投資しますが、ポートフォリオを再構築するタイミングはファンド毎の決算期に応じて行なうため、保有する債券はそれぞれ異なります。

マイナス金利政策導入以降、各ファンドが公社債を再投資する際、利回りはマイナスとなっており、ファンドの損益はポートフォリオを再構築した時期に応じて徐々に低下しております。その結果、ファンド全体の損益がマイナスのファンドについては基準価額が下落傾向にあります。

### ■今後の運用について

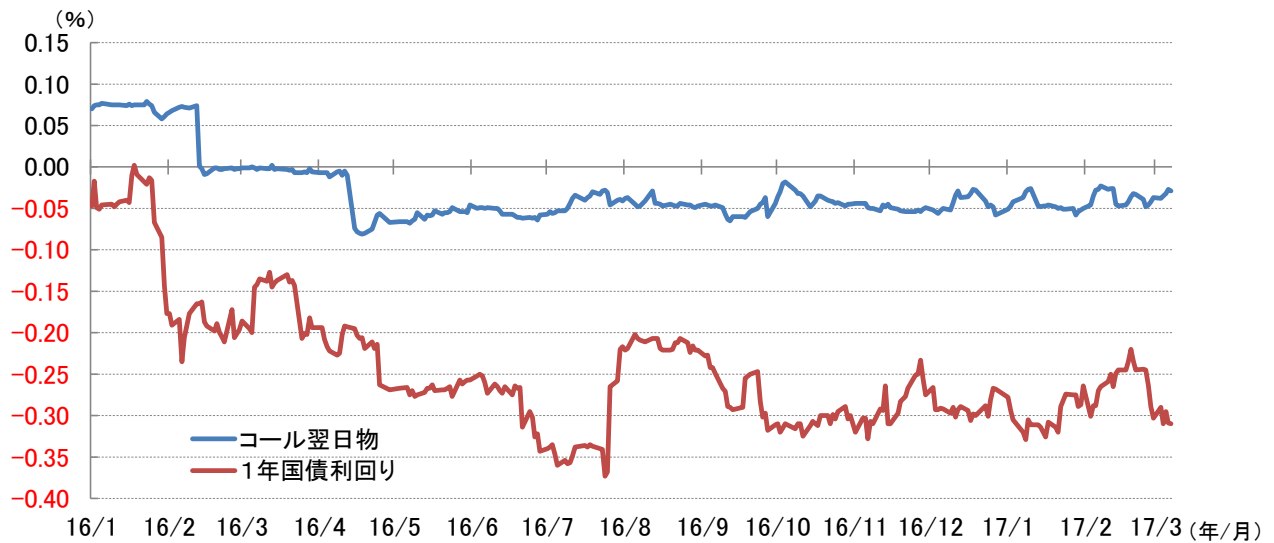
現在も日本銀行によるマイナス金利政策は継続されており、「公社債投資信託」の主要な投資対象の金利もマイナスで推移しています。

「公社債投資信託」は安定運用を行なうという方針のもと、残存期間1年以下の公社債を中心に短期金融資産も含め利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、運用することを目指します。「公社債投資信託」はファンド毎にポートフォリオが異なるため損益状況もそれぞれ異なりますが、現在の環境下においては、今後いずれのファンドにおいてもマイナス利回りの資産への投資によりファンド全体の損益がマイナスとなり、基準価額が下落することが想定されます。

また、決算時に基準価額が1万円を超過しているファンドについては、1万円を上回る部分を分配金としてお支払いしたのち、基準価額が1万円を下回ることが想定されます。

受益者の皆様におかれましてはご留意くださいますようお願い申し上げます。

《日本の短期金利の推移(期間:2016年1月4日～2017年3月10日、日次)》



(出所)ブルームバーグデータを基に野村アセットマネジメント作成

— 上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。 —

《(ご参考)「第1回～第12回 公社債投資信託」の基準価額 2017年3月10日現在》

	基準価額	基準価額が 10,000 円を下回った日付
第1回 公社債投資信託	10,000 円	—
第2回 公社債投資信託	10,000 円	—
第3回 公社債投資信託	10,004 円	—
第4回 公社債投資信託	10,002 円	—
第5回 公社債投資信託	10,002 円	—
第6回 公社債投資信託	10,001 円	—
第7回 公社債投資信託	10,000 円	—
第8回 公社債投資信託	9,999 円	2017年1月12日
第9回 公社債投資信託	9,999 円	2017年1月18日
第10回 公社債投資信託	9,999 円	2017年1月26日
第11回 公社債投資信託	9,999 円	2017年3月1日
第12回 公社債投資信託	10,000 円	—

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

皆様のご信頼にお応えできますよう引き続き努力してまいり所存でございます。何卒ご理解賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

謹白